

「私たちの欲しい豊能町の未来像」

ワークショップ開催レポート

Bチームが考えた

住みたくなる 子育て環境



悩みを抱えながら育児する「親がリフレッシュできる場所」を作りたい。情報交換、交流、相談できる場所として、高齢者の介護施設とコーディネートできないだろうか。一方「放課後の居場所」も欲しい。いつでも一時保育を頼めたり、中高生も楽しめるような場所が無料開放されていたら。



Cチームが考えた

既存ストック の活用

まず住民から、町なかの「身近な商い」が時流であることの理解と期待を持ってもらいたい。法規制を見直し、企業が参入しやすい環境を整えてPRすることが必要。多く意見が集まった「廃校活用」について。施設活用の検討や管理について、実際に使う住民も交えたオープンな仕組みが理想。

Dチームが考えた

新しい仕事や 生き方の創出



「挑戦する場」の大切さに注目。住民がやってみたいこと・できることを実行し、町内外へ活動内容を発信。そのため環境の整備や規制の緩和、コワーキングスペース・ワーケーションスペースがほしい。企業には雇用拡大やスポンサーとして関わってもらえたら。

Aチームが考えた

健康な 暮らし



多くの意見が集まったのは「公園」。遊具等の保安全管理のほか、みんなが集まる場所として今一度機能させたい。他チームからも賛同が寄せられた、車に頼らない「歩くのが楽しい町」。住民と協業し、花壇等の景観整備や目的地となるような立ち寄りスペースを充実させたり、ポイントが貯まるウォーキングアプリの開発などで企業協力も仰ぎたい。

「豊能町がこうなったらいいな」
みんなでも考えてみました。

現在、町の最上位計画として位置付けられている「豊能町第4次総合計画」の計画期間が令和3年度で終了を迎えるため、令和4年度以降の豊能町のまちづくりの方針を定める「豊能町総合まちづくり計画」の策定を進めています。この「豊能町総合まちづくり計画」策定にあたり住民からの意見を取り入れ、住民にとってより良いまちをつくるべく、住民に合った計画とするために、住民ワークショップを開催しました。

ワークショップには、住民主体のまちづくり活動を行う「トヨノ応援会」のメンバーを中心に40名が集まり、「私たちの欲しい豊能町の未来像」というテーマに沿って「今後10年間で豊能町がこうなったらいいのにな」という理想像を発表してもらいました。
このワークショップで出てきた意見については、「豊能町総合まちづくり計画」策定の材料として施策や方針に反映し、多くの住民の理想を叶えるまちづくりを進めていくための計画としていきます。

トヨノノ応援会 報告会



3月14日、トヨノノ応援会に応募されたプロジェクト22組の活動報告会を行いました。郷土愛にあふれた十人十色の行動力ある方々が集まり、個々の取り組みを紹介。発表を終える頃には、良い未来に向かって動き出す——そんな予感を感じさせる心地

よい熱気に会場全体が包まれました。懇親会では、参加者それぞれが、ほかのプロジェクトへの応援メッセージをプレゼント。応援しあい、影響しあうことでさらに懇親を深めました。

「自分らしさを応援しあおう！」



Gチームが考えた

人のいる風景、町の景色や歩く道

「町の公園をオープンカフェに」という提案。お店を持っていない人もお試し開業できる仕組みがあると良い。客になったり宣伝するなどして住民同士で応援できれば。不可欠なのは、場所の提供のほか、テーブルなどの店舗什器。使用許可に関する手続きを簡略化させることで活性化させたい。



Eチームが考えた

町の魅力創造

協力しながら働く「コワーキングができる町」を提案。ライター・写真家などクリエイティブな部分だけでなく、連絡をつなぐ、報・連・相ができる、といった働くための基礎的なスキル作りが大切。そのために講師等の人材派遣のほか、企業・行政からは仕事依頼や場所提供で力を貸してほしい。

Fチームが考えた

魅力ある教育



「小～中学校から好きな授業を選択できる」しくみ作りに賛同が集中。固定概念を越えて、フリークラス・フリー学年で学びを提供できないか。「こんなことをやりたい」という自主性を尊重。企業が教育に参戦することで自由度を広げるほか、教師や親の心のケアにも注目が集まった。

トヨノノレポーター レポートあとかぎ

応援会の一員として報告会＆ワークショップに参加してまいりました！
たくさんの意見が飛び交い「意見を出すだけではなく、これから自分たちがどう行動していけばいいか、議論や報告を重ねていきたい」と積極的な対話へと広がりました。プロジェクトの枠を越え、豊能町の未来を創る仲間意識が強まっています。今後の動向に目が離せません！

問い合わせ先

まちづくり創造課(☎7391341)